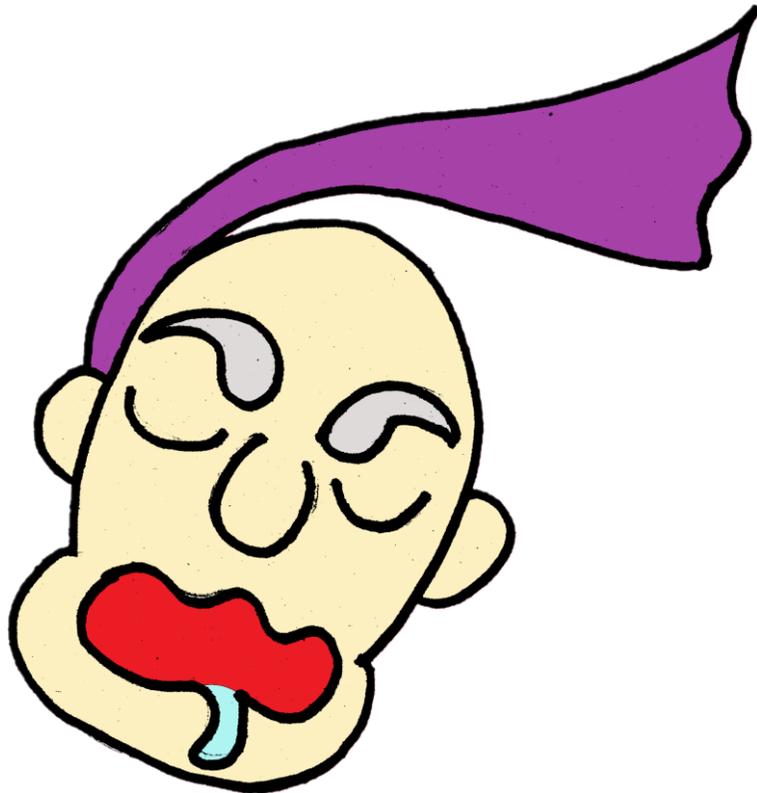


つながるの昔っこ27 (昔話)

和尚様と小坊こ② (津軽弁)



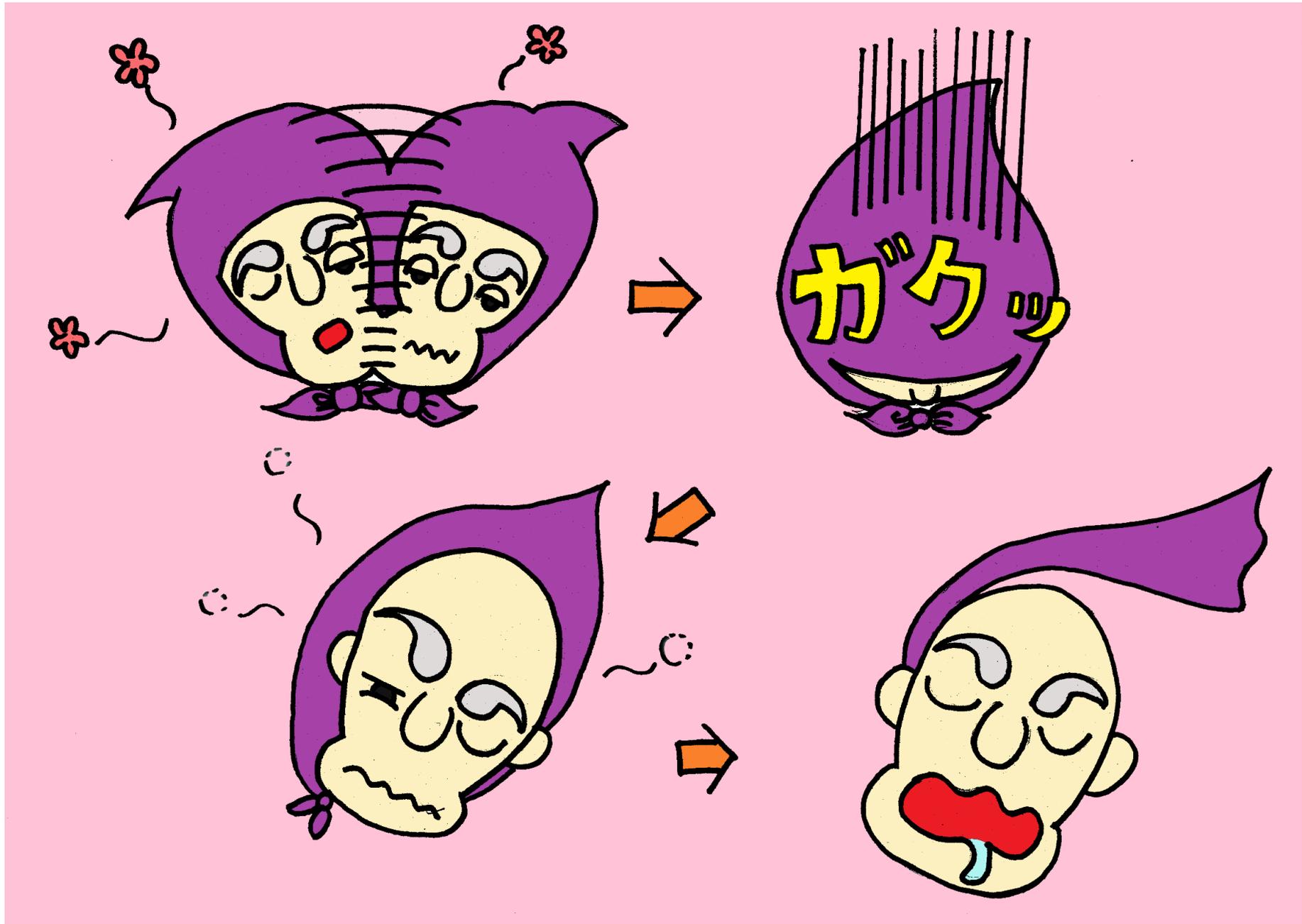
国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：うじいえひろみ
カラーリング：みやかわみなみ

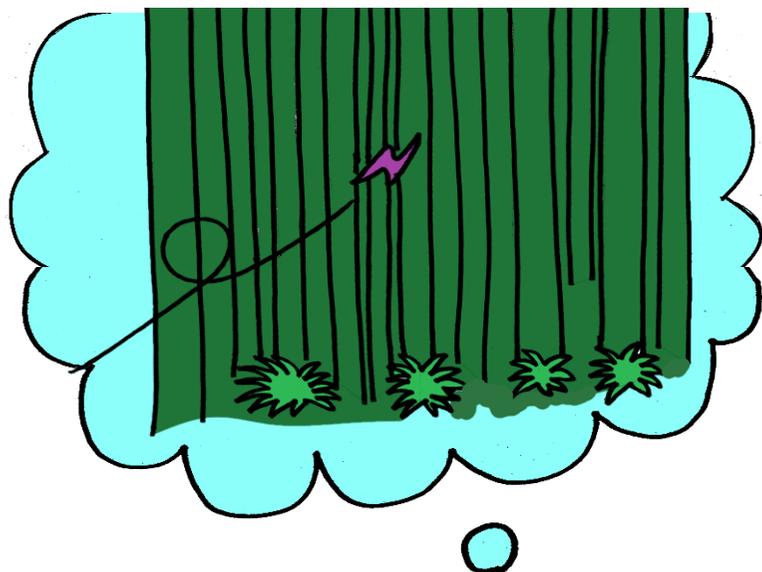


昔、山の寺コさ和尚様ど小坊コいであたど。
ある日和尚様、檀家の法事さよばえで、馬（ま）コさ乗って、小坊コばお供にしてでがげだど。
ウグイス、ホーホケキョて鳴いでら、気持ちこいい春の日であつたど。

馬（ま）コの背中でポックラポックラど揺れでるうちに、和尚様、うつつらうつつらと居眠り始めだど。

うつつら、コックラ、うつつら、コックラて眠でるうちに、和尚様かぶってら頭巾コだんだんずれできて、とうとう頭（あだま）がら落ちでまたずおん。





たーんげ行ったきや、頭コースーすてす
どごで和尚様目さましたきや頭巾ねえど。

『小坊コ、小坊コ、我（わ）の頭巾わが
ねが？』て云（し）たきや、小坊コ『さ
きた頭から落ちで、土手の藪（やぶ）の
方さとんで行げした』て云（し）たど。



和尚あ、かんかんになって怒って、

『なんぼ馬鹿だ小坊コだば、走（は）けで戻て探して来い！』て拾いにやったど。

小坊コ走（は）けで行って、藪（やぶ）の中（なが）探して持って来たど。

和尚様『今度（こんだ）、馬（ま）がら落ちだものあったら、何でも拾っておげ』て云（い）
いつげで、又頭巾をかぶって行ったど。

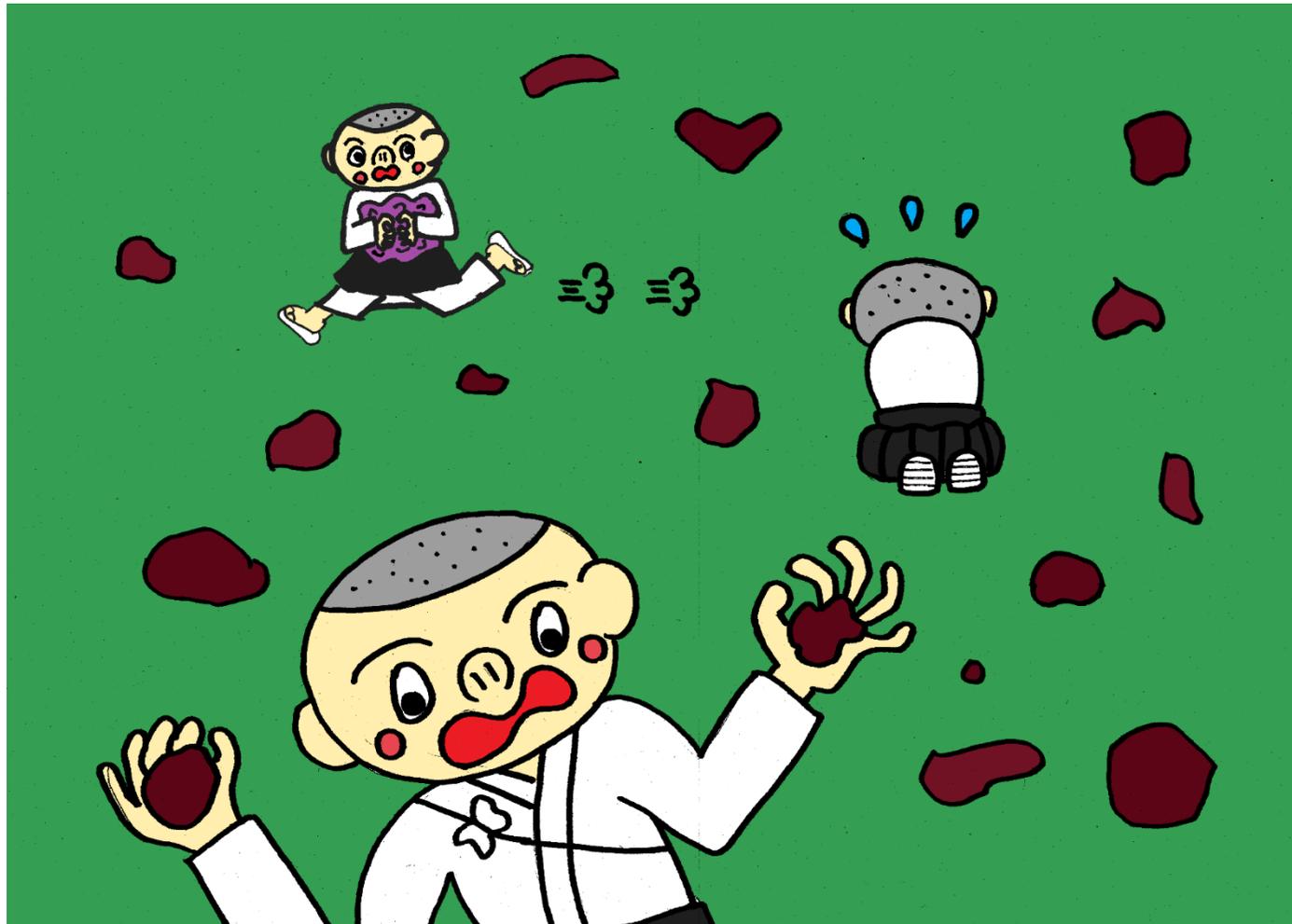


ポックラ、ポックラて歩いてるうちに、和尚様、又、うつつら、コックラ、うつつら、コックラど舟コこぎ始めだど。

したきや、又、頭巾コずれで落ちだど。

小坊コあ和尚様に云われた通り、落ちで来たのば拾って、馬コのあとついで行つたど。

そしてらきや、馬（ま）コあ、尻尾ばボンと上げで、馬（ま）の糞、ボタラボタラど落どしたど。小坊コあ、馬（ま）から落ちだものあ何でも拾えて云（さ）えでらどごで、その馬（ま）の糞ばみんな拾って入れるものあねえどごで、和尚様の頭巾さズツパど入れで持って行つたど。



そしてるうちに檀家の門の前まで来たずおん。

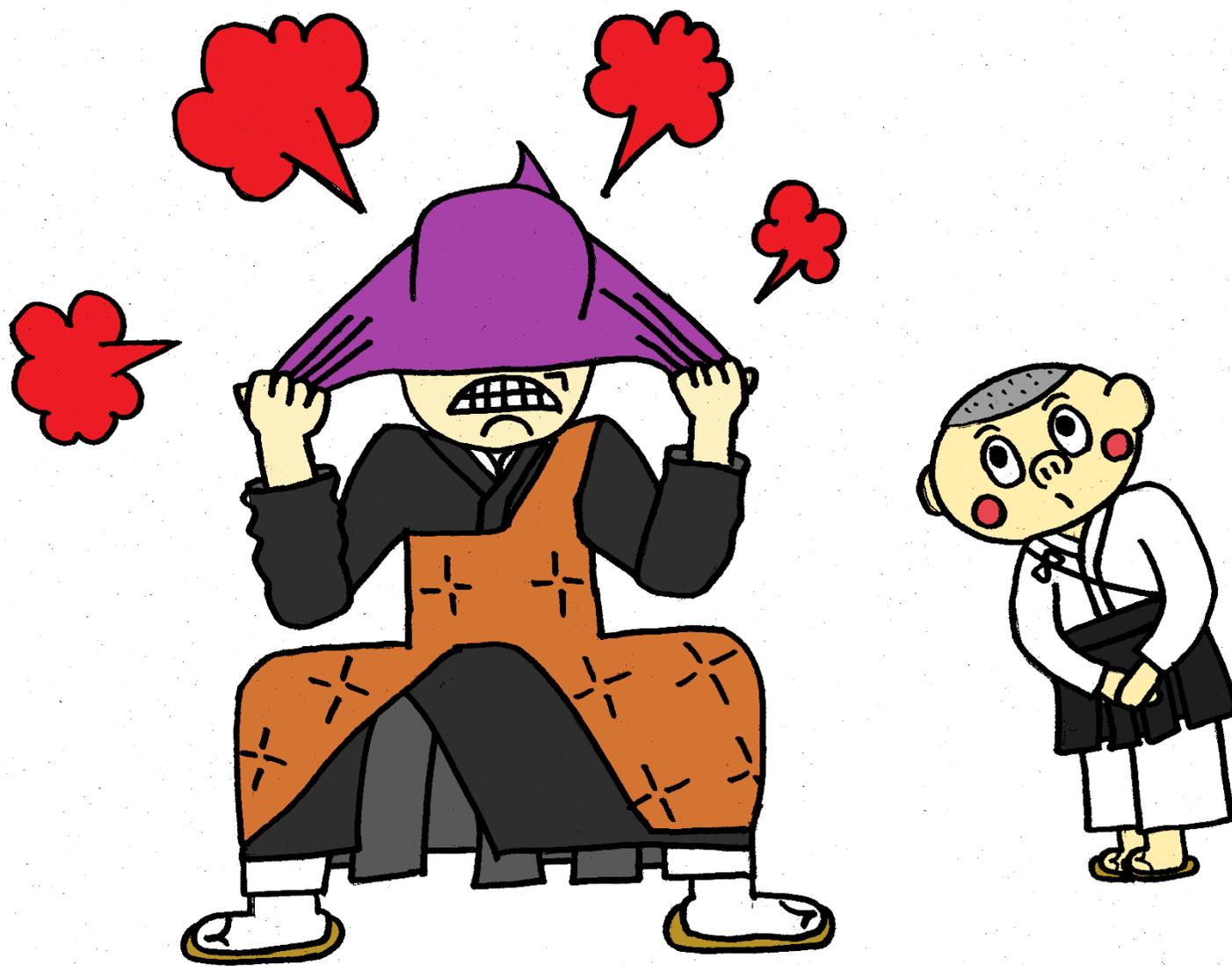
檀家の旦那様迎えに出はて来て

『和尚様、和尚様、よぐ来てけした』て云たど。

和尚様、馬（ま）がら降りだきや、頭の上さ頭巾ねえ。

あわでで見だきや、小坊コ大事そうにたないであたど。

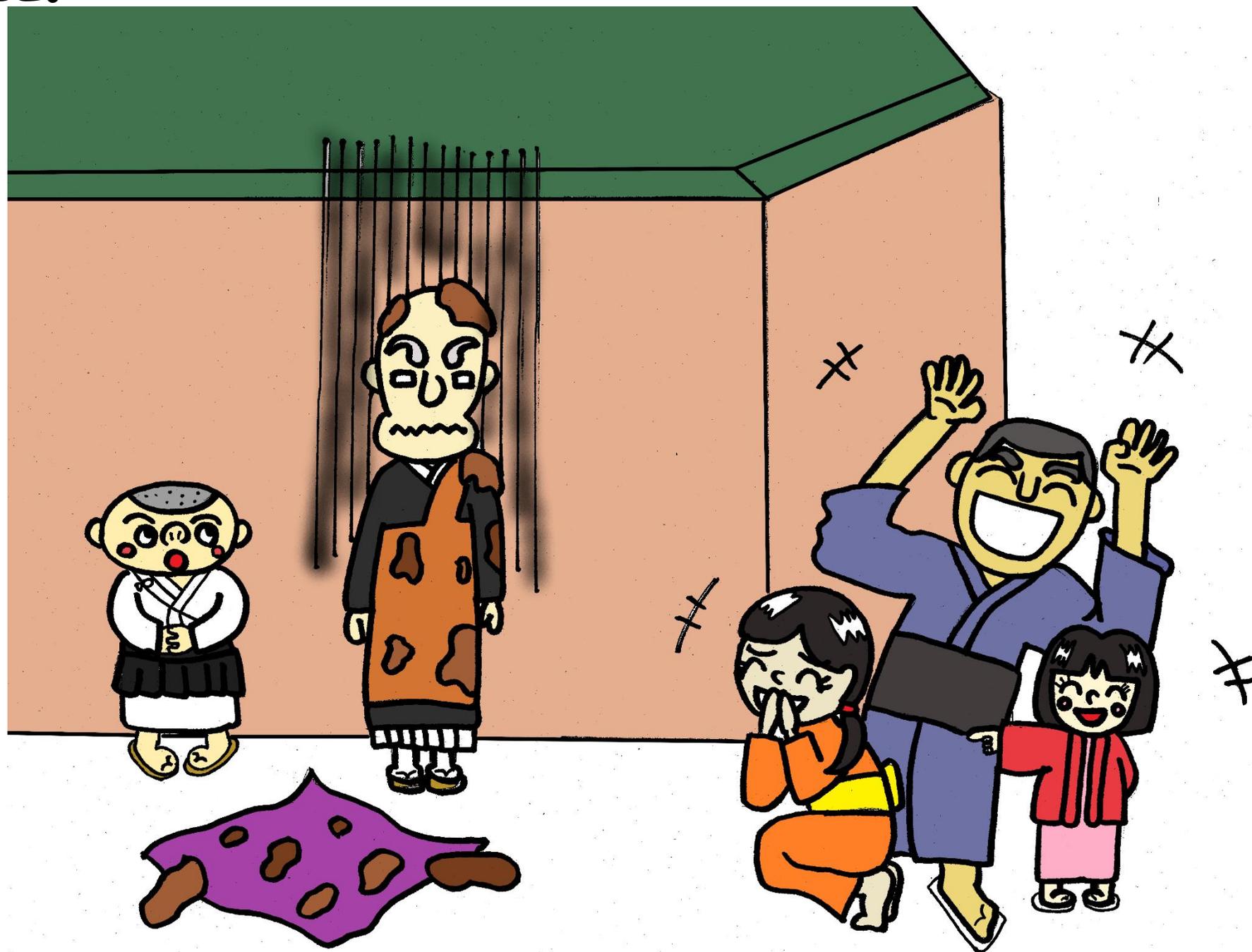
和尚様、『どら、よごへ』て、頭巾ば小坊コの手がらバックラど取って、ウツてかぶったど。



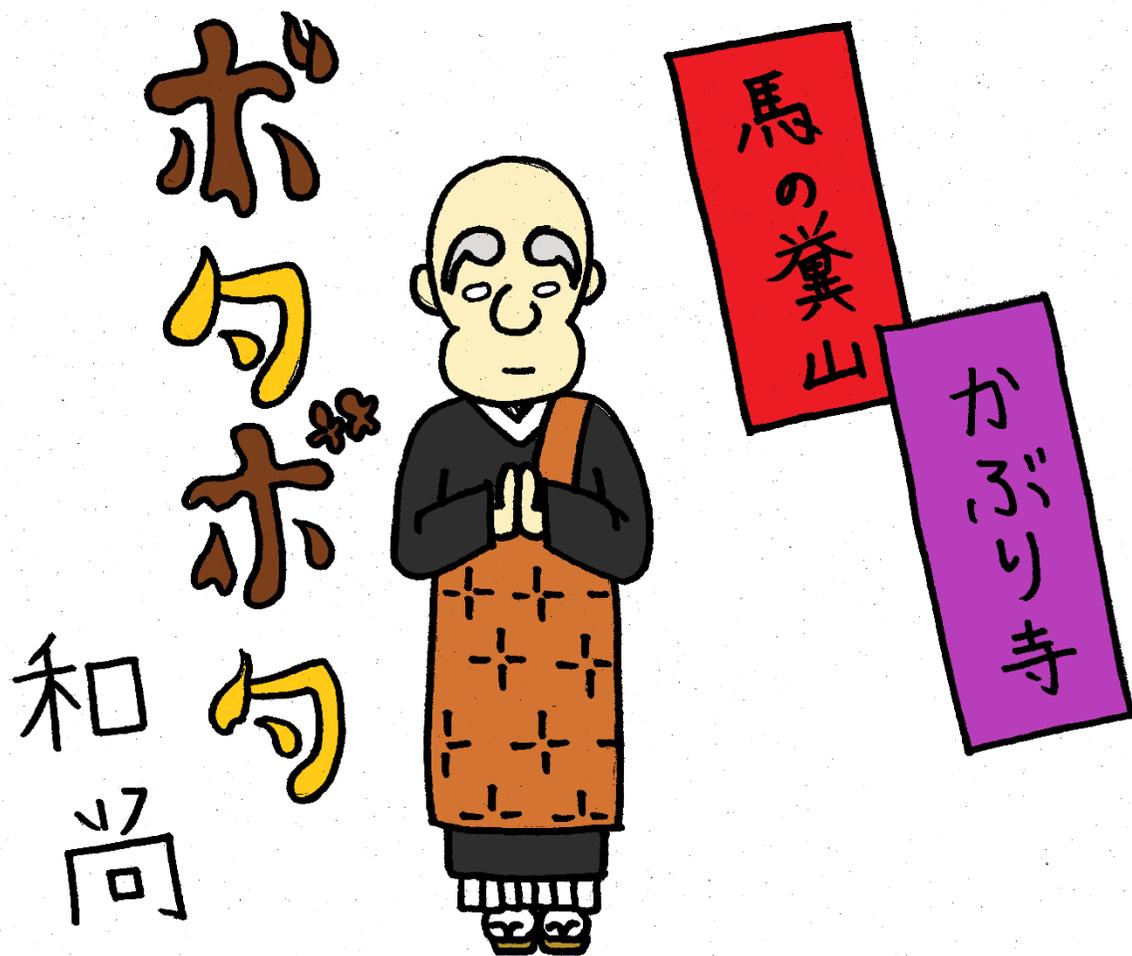
そしたきや頭の上から馬（ま）の糞あ、ぼったら、ぼったらど落ちで来たどせ。
頭も顔も馬（ま）の糞だらけになった和尚様、
『何だば、何だば！お前（め）何したんだば！！』て顔（つら）まっ赤にして、小坊コ
とば叱ったど。



『したて和尚様、馬（ま）がら落ちだもの、何でも拾っておげてしたはんで、我（わ）、拾って持って来たんですおん』てしたとごで、檀家の人達も、おがしくておがしくて、どっと笑ったど。



それから誰（だ）がらともなく、この山寺の和尚さんば、「馬（ま）の糞山 かぶり寺」の
ポタポタ和尚て云（す）んたになつたど。



これも臭くておがしい話コだきやなあ。